

検証結果の概要

プロジェクト名

「高知県木質資源エネルギー活用事業 A」

(国内排出削減プロジェクトからのVER認証・管理試行事業)

検証実施機関	財団法人日本品質保証機構
検証報告書発行日	平成 21 年 1 月 13 日
検証意見の要約	「オフセット・クレジット (J-VER) 制度実施規則 (2008 年 11 月 14 日)」、「オフセット・クレジット (J-VER) 制度モニタリング方法ガイドライン(Ver.1.0)」、「オフセット・クレジット(J-VER) 制度モニタリング報告書検証のためのガイドライン (Ver.1.0)」及びポジティブリスト No.0001、方法論 JAM0001 に基づいて実施された本検証の範囲において、検証チームが実施したプロセス及び手順の結果、「オフセット・クレジット (J-VER) 制度に基づく温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクトモニタリング報告書 (2007 年下半期) Ver.1-2」に記載されたプロジェクト期間 (2007 年 10 月 1 日～2008 年 3 月 31 日) の二酸化炭素排出削減量 899t-CO ₂ は、重要性の判断基準の 5%以内であるが、モニタリングの方法がガイドライン及びモニタリングプランに準拠していないことから、検証意見は限定付適正意見であることを表明する。
備考	本検証において、フェーズ 1 及びフェーズ 2 の検証活動を通じて、検証基準に適合しているか否かの確認を行った。その結果、林地残材の含水率と発熱量の値について、林地残材の部位や搬入のタイミング、季節変動等さまざまな要因により含水率や発熱量がばらつく可能性のあることが判明した。このことについて、バリデーション報告書では、林地残材の含水率や発熱量のばらつきが大きく、重要性の点でリスクがある可能性があるため、排出量の検証にあたっては、この点を踏まえた検証を行うことが要請されて

いた。また、林地残材についてのモニタリング方法を含む QA/QC 体制についても、バリデーション報告書において言及し、排出量の検証にあたって、この点を踏まえた検証を行うことが要請されていたが、林地残材の含水率と発熱量の値について、2007 年度では、モニタリング開始が J-VER 制度スタート前であったこともあり、申請書のモニタリングプランに従ったサンプリングが行われておらず、他の木質資源と混合した状態でサンプリングされていたことが判明した。

これらのことから、検証チームは、フェーズ 2 検証においてバリデーション結果について確認を行うために、気候変動対策認証センターに対して問い合わせを行った。事業者は、気候変動対策認証センターからの回答を踏まえて、2007 年度の林地残材の発熱量については、直近の 2008 年 4 月のサンプルの 7 割の値とし、含水率については、同月の最も保守的な値となるサンプルの値を使用してモニタリング報告書の修正を行い、検証チームは、修正の妥当性について確認を行った。その結果、重要性の基準である排出削減量の 5 % を満たしていると判断した。

しかしながら、林地残材の含水率と発熱量の値について、2007 年度では他の木質資源と混合した状態でサンプリングされていたことを踏まえて、検証チームは検証意見を限定付適正意見とし、事業者に対して、今後、林地残材の分析方法について、林地残材の特性を考慮したサンプリング方法等について手順書の整備が必要であることを指摘するとともに、次回以降の検証において、林地残材についてのモニタリング方法等についての検証を実施するよう申し送りを行った。